



平成21年2月24日

各 位

会 社 名 サッポロホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 村上隆男
コ ー ド 番 号 2501
上 場 取 引 所 東証・札証
問 合 せ 先 取締役 経営戦略部長 上條 努
TEL 03 (5423) 7407

2月17日付の SPJSF からの書簡について

当社は、スティー爾・パートナーズ・ジャパン・ストラテジック・ファンド (オフショア)、エル・ピー (以下、「SPJSF」といいます。) より 2009年2月17日付の書簡を受領しましたが、本日、SPJSF に対し当社の考えを伝える書簡を送付しましたのでお知らせします。

具体的には、当社はこれまで一貫して、株主共同の利益の保護の観点から、SPJSF との協議に臨んできており、SPJSF を含む当社株主ならびにその他全てのステークホルダーが満足できる解決策を模索すべく努力してまいりましたので、かかる当社の真意を改めて SPJSF に伝えました。

また、同書簡の中で述べられている「貴社の業績が悪化の一途を辿っている」旨の指摘については、当社の過去3年間の経営実績ならびに本年以降2カ年の経営計画について、別紙のとおり補足説明を行いました。

そして、同書簡において当社の企業価値・株主価値を改善するための対策として掲げられている事項については、いずれも当社内において検討ないし取り組んできているものであり、SPJSF にはこれまでも当社から「具体的かつ建設的なディスカッションを行っていききたい」旨の提案を行ってききましたが、本日改めてかかる当社の意向を SPJSF に伝えました。

当社は、今後とも株主共同の利益の保護の観点から適切に対応し、企業価値の最大化にむけ経営努力してまいります。

以 上

当社の過去3年間の経営実績並びに本年以降の経営計画に関する補足説明（要旨）

1. 当社の過去3年間の経営実績

	2006実績	2007実績	2008実績
売上高	4,350億円	4,490億円	4,145億円
営業利益	86億円	123億円	146億円
経常利益	58億円	81億円	105億円
当期純利益	23億円	55億円	76億円
金融負債残高	2,360億円	2,124億円	1,892億円
D/E レシオ	2.1倍	1.7倍	1.6倍
ROE	2.1%	4.6%	6.3%

- 1) 当社の連結業績は2年連続で増益となり、経営計画に基づき取り組んできた「収益基盤の強化」についての成果が着実に出ています。また、D/E レシオやROE も段階的に改善しており、「財務基盤の強化」や「資本効率の向上」についての成果も着実に出ています。
- 2) この間、国内酒類事業では生産拠点再編や販促費コントロール、国際酒類事業ではスリーマン社買収、飲料事業では外部パートナーとの業務提携による事業再構築、外食事業では既存店改革と新業態開発による出店強化、不動産事業では外部パートナーとの業務提携や新規物件開発など、様々な改革や施策を実施し成果をあげました。
- 3) なお、昨年は国内酒類事業において一部新商品の不調や価格改定時期の影響などもあって売上の減少を余儀なくされましたが、「エビス」や「麦とホップ」等のブランド力強化などにより、本年は前年を上回る売上を達成すべく取り組んでいます。
- 4) また、国際酒類事業におけるスリーマン社の減損は、金融危機に伴うカナダ株式市場でのリスクプレミアム上昇を受けて「のれん」を再評価したものであり、売上数量はカナダの総需要を上回る伸びを達成しています。

2. 本年以降の経営計画

	2009計画	2010計画	2016目標
売上高	4,083億円	4,131億円	6,000億円
営業利益	120億円	147億円	400億円
経常利益	85億円	—	—
当期純利益	30億円	—	—
金融負債残高	1,880億円	—	—
D/E レシオ	1.6倍	1.6倍	1倍程度
ROE	2.6%	3.5%	8%以上

- 1) 世界規模での未曾有の景気後退局面の中、当社グループも全ての部門において厳しい環境下で事業を展開することとなりますが、新たに策定した経営計画においては、2009年-2010年を『次の成長軌道へ転換するための基盤づくりの期間』として位置づけ、引き続き「持続的な成長へ向けた取り組み」と「強みを活かした事業展開と収益基盤の強化」を図っていきます。
- 2) 2009年は減益の計画としていますが、会計基準変更に伴う減価償却費増や為替などの要因を除けば、実質的には増益の計画であり、環境変化の中でも安定的な収益を実現する基盤構築にむけて、引き続き改革を進めていきます。

以上